

第20回 第3分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第1分庁舎 研修室
日 時	平成18年4月20日 午後6時30分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 安達、佐々山
		責任者	区事務局(黒澤)
会議出席者：34名 傍聴者0名 他分科会委員4名 (区民委員：22名 学識委員：2名 区職員：8名 コンサル：2名)			
配布資料 <ul style="list-style-type: none"> • 第3分科会(第20回)次第 • 第3回編集部会まとめ • 提言書まとめまでのスケジュール • 第1回最終提言ワーキンググループまとめ • 区民会議第3分科会 提言のまとめ(素案) • 車中心から人間中心へ • 第3分科会(第19回)議事録 進行内容 <p>1 提言のまとめ</p> <p> テーマ3 楽しもう新宿</p> <p> テーマ4 われらの新宿</p> 会議内容 <p>【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員、 : コンサル</p> <p>: (配布資料確認)</p> <p>< 編集部会決定事項 ></p> <p>(書式について)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 用紙はA4サイズ • 文字の大きさ12ポイント MSP 明朝体 • 40文字×35行 • 見開き2ページを使って中項目、将来のあるべき姿と現状と課題を書く • 小項目10項目ぐらいをそれぞれ8行～10行、300～400文字 • 小項目以外の具体的な手法を箇条書きにしてもよい • 地図等はA3サイズで折り込む • 絵などを挿入してもよい <p>(全体構成について)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大きく4つのテーマ<土地の記憶の再生と創造、暮らしを守りいのちを育てる、楽しもう新宿、われらの新宿> • 大項目の表題名は仮 			

- ・第3分科会の中項目テーマには 印をつけてある（別紙分類表参照）
- ・同じような中項目は合体し、主にまとめる分科会を決めた

（今後の進め方）

- ・合体させる中項目の原稿のやり取り、4月27日18時～20時
- ・原稿を5月2日までに作成
- ・5月8日に第3分科会の原稿案を編集部会に提出

：皆さんこんばんは。今、黒澤さんからお話しがありましたが、最終提言書まとめまでのスケジュールが相当タイトになってきました。今日、分科会リーダーの山下さんがいらっしゃらないので、代わりに私のほうから説明させていただきたいと思います。先程大テーマが4つになったというお話がありました。この間、卯月先生、私、事務局、リーダーと少し話し合いをしまして、第3分科会として出す最終提言書は区民委員の皆様の手で書いたほうがいいのではないかと、きちんと最後に区民委員の方をお願いしようというふうに考えまして、大変勝手ではありますが、それぞれの大テーマごとに資料のスケジュールというところに書いてありますが、起草部会を立ち上げて、その中の起草者という方々に大テーマごとの責任者になっていただきまして、書いていただけないかと考えております。事前にお願いできた方も、今日いきなりお願いする方もいらっしゃいますが、これまでコンサルさんを書いていただいたたたき台を用意して、それについて議論をしていただきましたが、区民委員の皆様にしてみると自分とは関係ないという雰囲気にしてしまったと反省しております。今からお名前を申し上げますが、大テーマを区民委員の皆様起草者として書いていただきたいと考えております。

今までグループリーダーでやられてきた方や、あるいはこうしたタイトなスケジュールですのでこういう事に慣れていらっしゃる、お仕事で関係がある方など、そういう経験も踏まえて大変勝手なのですが、そのような方々にお願いしたいと考えています。よろしいでしょうか。

（反論なし）

それでは宜しく願いいたします。もう一度このスケジュール表に沿いながら、起草者の皆様、それから他の皆様がどのようなスケジュールで動けばいいのかという話をしていきたいと思います。一番上の欄が4月20日になっています。今日はテーマ3, 4をコンサルさんにたたき台を作って頂いていますので、それについて議論をいたします。一方で原稿の執筆が依頼できたということにさせていただきまして、その方々には4月27日の6時から8時の間に各分科会の起草者の皆さんが集まることになっています。その場で、大きなテーマ「土地の記憶の再生と創造」を例に取りますと、「文化・歴史を都市の軸にする」は第5分科会の担当となっていますので、そこに書くべき内容を第5分科会の担当の方に伝えていただく、例示や箇条書きといった形でもいいかもしれませんが伝えていただきたいと思います。編

集部会全体の約束事としては、基本的に受け取った意見をむやみに削除はしないとなっておりますので、出したものは多少合体はあるかと思いますが、出したものは受け入れるということになっております。大変急ですが27日までに他の分科会に対して何を言うべきかをご用意いただければと思っております。一方で他の分科会から意見がくる。4月27日が各分科会の調整をするということになっております。それを踏まえて5月2日までに起草者の方々は原稿を出していただく。その原稿の量は基本的には、この容量を大体は守っていただきたいのですが、多少の上下は構わないだろうということになっております。5月8日に編集部会委員へ原稿送付となっておりますが、全体の編集部会のほうもそれを踏まえてチェックを図ります。同時に5月9日の分科会に起草者の皆様から全体に発表をしていただきたいと思っております。その際に区民委員の皆様のご意見をいただきたいと思っております。つまり、編集部会と第3の区民委員さんのチェックが同時に入る期間になります。5月14日は編集部会で集まって全体の調整をするのですが、それをもう一度起草者の皆様にお返ししまして、若干の調整をしていただくということになります。5月18日は最終調整が出来ていることになると思います。何かあればそれをもう一度編集部会に投げて、それぞれの分科会で微調整を行い、最後6月6日には出来上がった提言書をこの場におはかりすると、そして6月9日には印刷の発注というスケジュールです。非常にタイトなスケジュールですが、今までのスケジュールあるいは全体の分科会の最終提言書の目次などについて、いろいろご意見やご質問などがあるかと思いますがいかがでしょうか。

：まとめられるのですか、一ヶ月ぐらいで。十年の長いものを考えるという部分でタイトだ何だってほんとにまとまるのか。本当に活かせるような原稿になるのですか。

：一応、中間発表会でそれぞれの分科会の内容は割と煮詰まっているというかきちんとできたという判断のもとで、これぐらいで調整しなければならないと思っております。

：それからどういうふうを考えているのか分からない部分で、いきなり原稿だけ出されても。一週間でどうのこうのというよりも、第5分科会の人とある程度話をしないと、厳しいのではないかと。

：そうだと思いますが、テーマの部分の「楽しもう新宿」のところですね。特に「ぶらり新宿」の部分、「車中心から人中心へ」は先程メモをいただいて、確かに「ぶらり新宿」の部分は今までの議論を踏まえましてきついとは思いますが、これ以外にやり方が見つからないといいますが、できれば今まで中心になられていた方々から中間報告以上のことがあれば出していただきたい。

：丸投げで出して削らないというふうにしたら、まとまらないうちに終わらないですか。

：そこら辺の書き方が文字を一語一句削らないということではないのですが、確かに難しいと思います。ただあまり削る方向でということになってしまうと逆によくないことも。

：すいません。安心・安全のほうですが、22日までに原則第6へ用紙を渡すということになっているのですが、明後日ですよね。今までに出来ているものを渡せば良いということですね。

：はい。そういうことです。第6分科会を開く日程からどうしても22日までと要請されまして。

：27日に話し合い、調整はするのですね。

：はい。します。

：取りまとめの先生にも、区民委員の方にもお聞きしたいのですが、根本の問題として提言書を取りまとめて出すのは絶対条件だと思っているのですが、それが出すことで終わりなのか。それから区民会議の最初の要領に書いてあったような審議会から返ってきたら意見を言うという話がありますが、その後どうするのか。これほど大きなテーマを短期間に世の中どんどん変わる中で、本当に協働でやっていくとしたら、少なくとも一生懸命苦労して勉強された方々のエネルギーをそのままにってしまうことはない。それから実際に18、19年度の実施計画を見てもいいことは書いてあるけれども、予算もついていないものもあります。そういう中で言いたいことは、今度で終わりではない。私はグループに分かれた時に仕組みをわざわざとりました。仕組みでこれからどうするのか。もう一つは第6分科会で扱うことになっていますが、中間のまとめでほとんど書いていない。第6分科会と調整して、この中でも意見交換して、具体的な提案として今度の土曜日に第6分科会でまとめを3時間一緒にしませんか。そういうことも含めてどのようにお考えなんでしょう。

：いかかでしょうか。

：提言をまとめてそれで終わりなのか。あとから区民会議という名前は変わったにしても、とにかく一緒になって、行政や議会それを補完する機関として残したらどうなのか。それが理想の姿なのは。

：第6分科会のほうでも、このままで終わりたくないという声もあるので。本来、協働・参画・コミュニティー、まだ発表していない自治制度。その自治制度の中で語る流れで考えていますので、その辺のご要望があるようでしたら出していただければ、それを汲み取りながらまとめていきたいと思います。自分たちもこのままで終わりたくない。この仕組みをどうやって存続していくのかということが、これからの提案になっていくのではないかと思うので。そういうことで考えていきたいと思います。ただ私の意見ではなくて、第6分科会の皆もそう思っていますので、一つ成就したいと思います。

：ありがとうございます。私は、他の分科会や新宿駅前地区協議会にも出ているのですが、そこでもそういうお話が出ています。私は図書館のことを10年もやっているとお婦人方が怒っているわけです。今度もそうだったら承知しないと。サポートしたりチェックしたり、いろんな意見はあっていいと思うのですが、仕組みをやりたいと思うので、他の方々も部会でも地区協議会でも何とかそういう方向でお願いします。

：はい。ありがとうございます。それは例えば今日の参加・協働の中で話し合いをしていただいて、第6のほうに投げるといふ形もあるかと思えます。時間もおしてきていますので、全体スケジュール、それから起草者の皆様へのお願い、そして全体の提言書の目次、よろしいでしょうか。ではこの方向でやりたいと思えます。どうもありがとうございました。

：次は、前回第一回目の6月25日に行われます全体会に向けてのワーキンググループが立ち上がりまして、そちらの方のまとめの報告がありますので、宜しくお願いいたします。

：それでは簡単にご報告いたします。最終案のまとめということでワーキンググループの集まりを18日、各分科会から2名ないし3名出ていただきまして、議論いたしました。ご承知のように6月25日の最終提言は、一番最初皆さんが集まった早稲田大学で開催いたしますが、そこでいったいどういう形でどういうふうに行うかという議論から始まりまして、この前の中間発表の時のように一日かけてやることはないのではないかと。皆さんのお手元にあります資料のように12時30分に開場、13時から第一部として発表をし、14時45分に休息をとって15時から正式に宣言書を渡すセレモニーをやって16時には終わりたい。こんなスケジュールです。それで、概ね4つの大項目ごとに説明をしよう。一応形として宣言書を一冊の本にまとめ上げるわけですが、区長さんよろしく申し上げますと簡単に渡すのはちょっと切ないので、この4つの項目を一つずつ約20分、そのなかで、適宜我々がここ一年間いろいろ議論してきたことを、全ては読んでいただければわかることですが、特に強調したいことを簡単に説明する。それから休息をとった後に、お世話になった学識経験者の先生方に壇上に一列に並んでいただいて、各分科会の先生方からコメントを頂き、最後に区長へ提言書を提出する。提出する方法ですが、どういうふうにしたらいいかまだ議論の最中ですが、一応壇上に区長さんにおあがり頂いて、各分科会から一人ずつ代表が出て、区長さんに宜しくお願いしますということで、提言書をセレモニー的に出す。その時に問題は先程そのおっしゃられたように我々はこの提言書を出しっぱなしでハイさよならでは意味がないと、やはりグループでも意見が出ました。従いまして、今後これをどのように見守って行ったらいいのか。と同時に提言書を提出する時に、宣言書として、一言文書を付け加えて出したい。こういう意見がありました。それは皆さん同じ思いだと

思うのですが、それは各分科会に持ち帰ってどのようにしたらいいか、出したほうがいいのか、出さないほうがいいのか、ということ議論したほうがいいと。あとは25日に向けて何回か、誰が何をという役割分担も決めて、細かいスケジュールも含めて会議を開く予定ですが、第一回目の会議の内容としては大体こんなところですか。特にこうしたほうが良いとかご意見があれば、後で申し出ていただければありがたいと思います。

：すみません。私のほうから補足をさせていただきます。区長に提言書を渡す際に宣言書というものを別に新たに作って、それを読み上げながら一緒に渡したいとワーキンググループで意見が出ました。そういったものを付ける必要があるのかどうなのかを各分科会に持ち帰って返事をしなさいということです。その辺皆様いかがでしょうか。

：私もワーキンググループに参加しましたが私はもうちょっと過激で、提出されたものが、検証制度というか、今、区がやっている評価表、果たしてこれが実施されたのかされないのか。今区がやっている評価表みたいなものを絶対出すべきだと、私はそういう意見を持ち上げたのですが、そこまでいなくてもいいですが、そういう宣言書を出すのは、私は賛成です。そういう趣旨で発言しました。以上です。

：私はワーキンググループの中で、宣言書を付けたほうがいいのではないかと言い出したのは私でありまして、やはり一年間いろいろな思いをして作ってきたこと、新宿の一区民として、私たちはこういう思いでこうこうこういうふうに提出いたしますということ、本当に真意を持って区長に提出する上で何か書類をつけて宣言書プラス、なにかイベントとしてつけて出したほうがいいと思って提案いたしました。

：宣言書のことでないですが絡むので。少し議論を前に戻すようで恐縮ですが、先ほど先生が、基本的には削除しないと言われました。そうするとかなりボリュームがあって、具体的な提案がありますよね。それをやはり私起草委員なので気になるわけですが、それを全部入れ込んで原稿を作るということになると、これかなり冷静に提言のレベルがいくつもいろいろありますね。その辺の話とかあるいは実現性の話とか。そういうことについて十分な議論が必ずしもされているわけではない。そのへんが全部提言という形でまとまって、一種の行政に対する一つの注文という具合になると私は都市計画をやっているものですから、多少気に食わないというところもあるわけですが、ただ一方で区民のこういう熱のある提言をどうやって文章としてまとめていくかというのは大変重要な話だと思っているわけです。もう一度改めて議論を振り出しに戻して恐縮ですが、提言の私がまとめなければいけない中身は、今中間報告であります。それから見ますと、「車中心から人間中心へ」これは最終原稿だという言い方があるわけですが、これを書いた人はこれが入れ込まれることを期待されていると思うんです。その辺の兼ね合いです。どのように考えてお

られるのかというのをもう一度改めて。それと今の宣言という意味合いが大変重要だと思います。どういうアプリケーションを区長に突きつけるのか。大変極端な言い方をしますと。

：削除しないということの意味は、一語一句というわけではないです。その意図であるとか、この2つは組み合わせて書けるのではないとか、そういうふうなことがまず前提です。それから全体の量が皆様にお示ししましたので、この中で書くべきことと、ここはちょっと省こうということは起草者の方にご判断いただいた中で、そういったものが出てくるという前提になると思います。とりあえず何でも書くということではなくて、最終提言書のこれぐらいの量の中で載せるべきものにふさわしい、それだけの議論が尽くされた中で出てきているというのが前提で最終提言書は作らざるを得ないと思います。

：それは起草者に一任するわけですか。

：そうです。

：今、起草者に一任されているとおっしゃいましたが、区民会議で私たちが一年間練り上げてきた今こういう思いを起草者の一任で変更されたり、議論された上でこういう書き方だったらいいけれども、第三者的な立場でそこを自分に一任されているからと変更されたのでは、私たちは一番それを心配しているんです。ですから一任ではなく、よく話し合いなり議論をして頂きたいと思います。

：私個人では、すでに議論が尽くされたなかで出てきていると認識しています。

：一緒に書くということですので、大丈夫だと思っていますが。

：もう一ついい忘れてのは、この宣言書的なもの絶対必要だと思います。将来のことも含めて。その辺もまた文言なりどなたがやるかということでもまた迷うかと思いますが。一つ出た意見、こういう話もありました。今度、当然11月か12月に区長選があります。区長が変わったらどうなるんだろう。こんな意見も出たのですが、私自身はそういう考えは論外だと、区長が変わろうが何しようが我々が決めたことは絶対どの区長になろうと、余程の人でない限りは続けてもらいたいという一つの提言書であるをお願いしたい、そういうふうと考えていいんじゃないかと。

：私はそうは思っていません。区長が変わればまた変わる。第一今まで基本構想があったわけで、それを途中で変えたのは区長の思いが、現状が基本構想を作った時と変わっているから変えた。またしばらく4～5年経てば、区長がもしも変わってれば変わりますよ。

：いやだから、基本構想は19年度までしかないでしょ。向こう十年間をつくるためにやっているのだから、区長が変わったから変わりましたじゃないんですよ。

：可能性はあるんです。

：可能性はあるにしても、変えてもらっては困る。

：困らないですよ。区長が変われば変わるんです。

：そうじゃないでしょ。今回のように区民が参加してこういうものをまとめるというのは初めてです。だから初の試みになる。だから初の試みだから今までの計画とガラって変わっていいわけですね。

：そうです。

：区民の本当の理想というのを描いてもらえるわけです、区長に。

：大切な議論だとは思いますが、今日はテーマ3, 4をやっていかななくてはいけませんので。

：宣言書を付けることが、なんの意味になるのか。

：形式です。

：逆にこれだけのものを考えたのだから、区からこれを前向きな言葉で、区側からもらったほうがいいのでは。

：そうそう

：当然、区長のほうからは提言書をいただければ、それに対して区長が受け止めて、区長の言葉で皆さんに対してお礼の言葉、それから今後どういう対応をしていくのかをお答えします。

：それがあればいいのではないか。

：その辺を含めて提言書がきちんと出来上がっているのにさらにその上に宣言書というものを付けて出すべきなのか、一方ではきちんとまとめてあるのだからいらないということであればいらないので。今、第3分科会としてどうするのかを決めて、ワーキンググループに回答を持っていかないとはいけませんので、ここで賛成反対をとりたいと思うのですが、よろしいですか。

：宣言書の内容が。

：それはまた、ワーキンググループのほうで中身のほうは具体的にやりますが、ただ先程おっしゃったように今後、提出した後の体制、区民としてきちんと監視していきますということをはっきりとそこで述べたいという宣言書だと聞いております。

：それも入れて、私たちが一年間作ってきた思いも込めたものが出来ましたので、お願いしますというような一つのイベントです。引き渡すからには何かそういうものを儀式として渡したほうがいいということ。表紙です。

：イベントとして考えるには面白くないですね。

：だけど、なんかありきたりすぎませんか。

：もう少ししゃれたショーアップがあれば。

：だから、洒落たショーアップがあれば意見をお願いしたい。

：広く知らせるという意味でイベント性。新聞社に写真を撮ってもらったり、要するに新宿区の区民会議というのは大変なものだと370人も集まって、十年二十年後のことを考えているんだと上手にやればNHKで放送してくれますよ。やり方です。

：それでは、本日のテーマであります、大きな3つ目と4つ目の提言のたたき台をコンサルの方から説明をしていただきたいと思います。

3. 楽しもう新宿

将来像：賑わい、創造、交流都市

ショッピング・飲食・娯楽・社交など多彩な交流が楽しめるまち

歩いて楽しい、回遊性や界隈性のあるまち

自然や歴史・文化など地域特性に根ざす新宿らしい大衆文化のまち

誰でも快適に移動できる交通が便利なまち

3 - 1 車中心から人中心へ【道路・交通・公共空間】

人と環境にやさしい道づくり（快適な歩行者空間の形成）

緑の風を楽しむ道のネットワーク

車の進入を防ぎゆっくり散歩できる道

人が安心して気持ちよく歩ける道

生活道路から車を排除し、整備する

交通弱者に配慮した交通バリアフリー化

車椅子利用が可能なエレベーターの設置

バス停に待合室を設置

車、人、自転車の棲み分け、分散

地区内の補助幹線道路のトランジットモール化、一般車制限

駅前空間の整備

放置自転車、一時駐車禁止

3 - 2 ぶらり新宿【賑わい、活性化、情報化】

賑わいと魅力あふれるまち ～歩いて楽しいまち～

ソフト作りとハード作りの両立

文化・歴史など、地域資源を活かす都市文化の創造、発信

各地域の個性に応じた賑わいのかたち作り、情報発信

民間と行政の協働によるまちづくり

民間事業者の積極的参加

4. われらの新宿

将来像：参加・協働創造都市

地区で考え、地区で行動してまちづくりを進める参加・協働創造都市

いつでもどこでも誰でも参加し、共通意識を持って協働してまちづくりを進める

参加・協働創造都市

われらの新宿にとって大事な財源を適切に使ってまちづくりを進める参加・協働

創造都市

4 - 1 地区で考え、地区で行動しよう【参加・協働】

地区の課題を地区で解決していくまちづくりの仕組みづくり

地区協議会を地区のまちづくりの主体とする

地区協議会の機能の中核となるエリアマネジメント機能

地区協議会の役割設定

4 - 2 . いつでもどこでも誰でも参加【参加・協働の新しい仕組み】

区民、地域住民、NPO、企業等が参加・協働できる仕組みづくり

区民会議と地区協議会の連携

中・長期的な視点を組み合わせた総合的なまちづくり

調査・構想・計画・実施・評価の各段階への開かれた参加の仕組みづくり

4 - 3 . お金は大事だよ【財源】

われらの新宿のまちづくりにふさわしい財源の確保

ニーズに合わせた事業の優先順位と、その予算の確保

まちづくりの新しい財源確保

まちづくりの新しい財源確保の手法の導入

：ありがとうございました。これから3つのグループでそれぞれに、テーマで議論して頂きたいと思います。最後に議論のご報告をお願いいたします。

(グループ討議)

：議論を簡単にご紹介いただきたいと思います。

：第5分科会との打ち合わせのようになってしましまして、どこがっているのかのすり合わせになったので、発表することは特にありません。しかし、かなり違うことでまとめられるかと思しますので、いい機会をありがとうございました。

：もう少し時間がほしかったのですが、そもそも、車中心から人中心ということが良いのかどうかという所から入ったのですが、路面電車の提案を公園と早稲田をつなぐものを提案したのですが、路面電車のどういう活用方法があるのか、ルートについて本当にそれでいいのかということをしちんと見直す必要があるのではないかと。業務系の車両の流れなど、そういう道の確保の提案も必要がある。ゴミ回収の24時間のコンテナについても議論がありました。駅の整備について提言から漏れていたもので、それについても入れる必要があると意見が出ました。

：第5分科会と第6分科会の方が意見を出して下さいました。協働について共通理解をしたほうがいいのではないかとということで、第6分科会でまとめて下さいました「協働関係」という概念の共有で説明を受けて共有しました。第5分科会の方から、区民同士のふれあいを大切に暮らしていくところの内容のコピーをいただきまして、特に共感したのが、NPOなど団体を助成したり、区で認めているようですが、NPOだけでなく、協働推進の情報共有の場が必要であるとか、個人も含めて小さな団体、草の根団体、ボランティア団体が抜け落ちていることを共通で認識して、団体で書いていくということを確認したということです。協働推進の情報共有の場が区役所のHP

にも必要なのではないかとということもあがっております。地区協議会のことについて、今後地域の情報を集めそれを引き出せるようなものとして、マンションの住民とか独身者に何か問題が起こったときに抱えてしまうときの情報提供や相談窓口になり地域のコアとなって、町内会の組織や集団とかかわって大きな輪にしていくのはどうか。その中でも図書館を発信基地としてはどうかという話が上がりました。区で行っている安全ネットが十分機能していないのではないかとという意見もありました。

：ありがとうございます。

：壁に地図が並んでいるのですが、こちらの説明をしていただきます。

：ここにある地図は、防災・水と緑の輪・歴史・文化・公園、公共施設・景観と地形・道路・交通網というものがあります。先程もお話にありましたように、区民会議としてまとめるときにこの図をどのように使うかご検討いただければと思います。これについては後日ご連絡をするような形で考えておりますのでよろしく願いいたします。

：起草をお願いしたのですが、起草の方にもう一度この図面を見ていただきまして、こういう図面がいるのではないかとということをお話し合っていたきたいので、最後まで残っていただきたいと思います。最後に一点、私たちのほうで見落としがありまして、大きな第2テーマ「暮らしを守り、いのちを育てる」のところで、中項目の中テーマ、「公園・公共施設をみんなで育てよう」というのが第3分科会の担当になっているのですが、そこは、鎌田さんに起草者に加わっていただきたくお願いをしましたところ、ご了解を得ましたので、皆さんよろしくご了解ください。

：すみません、先ほど議論させていただきました、区長への提言書を手渡す際に宣言書をつけるかどうかといったことで賛成反対をとりたいと思うのですが、よろしいですか。では、宣言書をつけることについて、賛成と思われる方を上げていただけますか。7人。では、反対と思われる方、つける必要はないとお考えの方。手を上げられない方は困るのですが。

：今は賛成か反対かでとっていますので。同数ですね。

：今、大西さんが宣言書をつける趣旨がきちんと本体に組み込まれているとか、先程のしゃれたイベントとしてできればそれはそれでいいというような発言もありましたが、今、手を上げられなかった方は、宣言書の意味が良くわかっていないから手を上げにくかったのかもしれない。

：提言書にはちゃんとそういうものは記載されるですか。

：先日のお話しですと、第6分科会のほうできちんとその辺は提言の中に盛り込みますとおっしゃってました。

：その、趣旨は本体の中にあると。それであれば、宣言書があってもなくてもその判断が何でいるのかと、いろいろそういうご質問があるからなかなか手が上げられなかったのかもしれないのですが。

：提言書の書き方自体は、まだ今後検討していかなければならないですね。どういう形にしてどういう風につけるか。

：そうですね。

：とにかく、その提言書を渡す時に、区民会議の一員として皆でこういう思いでこういう風に作りました。是非、区長さんをお願いしますという意味もこめての提言書としてきちんとした形で誰かが読み上げるなりしたいと、そういう宣言書です。渡すときのひとつのイベントとしてのものです。

：たぶん、その宣言書がないほうがいいとか、今手を上げられなかった人は、本質的にきちんとそれが区に伝わって区がきちんとやりますということがやり取りできればいいということですよね。それが宣言書という形に託すのは心配だということだと思うのですが、第3分科会の意見としては、そうした思いをきちんと実質的に確保できるような方法を考えてくださいということでもよろしいですか。ワーキンググループの3人の皆さんもそれでいいですか。

：それではワーキンググループの3名の方、よろしく願いいたします。

次回

日時：5月9日(火) 18時30分から

場所：第1分庁舎 7階研修室

閉会